

教育原理		担当教員	ます 増	だ 田	つばさ 翼
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
講義	2単位	1年次前期	必修		

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

本講義では、「教育」の意義と目的、人間の成長発達に対する遺伝と環境の影響、日本とは異なる文化・社会の中で育つ子どもの姿、生涯学習社会の進展、現代のユニークな学校、教育理論の歴史、西洋と日本の子ども観、教育制度の変遷など、現代の教育に関わる基礎的な事項について学ぶ。基礎的な事項についての知識・理解を得るとともに、現代の教育に関わる問題について、自分で考える力を身につけてもらいたい。

[2] 授業の計画

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 保育における教育原理
- 第 3回 教育の意義と目的：教育の社会的役割
- 第 4回 人間の発達と教育 ①遺伝か環境か
- 第 5回 人間の発達と教育 ②文化と社会化
- 第 6回 生涯学習社会における教育 ①生涯学習とは
- 第 7回 生涯学習社会における教育 ②成人期の学習
- 第 8回 現代のユニークな学校と教育方法 ①シュタイナー学校
- 第 9回 現代のユニークな学校と教育方法 ②学びの共同体
- 第 10回 教育理論の歴史 ①コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ
- 第 11回 教育理論の歴史 ②デューイと新教育運動
- 第 12回 子ども観と教育観の変遷 ①西洋
- 第 13回 子ども観と教育観の変遷 ②日本
- 第 14回 教育制度の変遷
- 第 15回 現代の教育課題・まとめ

[3] 評価の方法

試験は行わず、ノート等の提出物（50%）とレポート（50%）で評価する。
欠席、遅刻、早退および授業進行の妨げになる行為は減点とする。

[4] 教 材

改訂・保育士養成講座編纂委員会編『教育原理』（全国社会福祉協議会 2009）
その他、適宜プリント資料を配布する。

[5] 参考図書

江原武一・山崎高哉編『基礎教育学』（放送大学教育振興会 2007）
荒井聡史・今村光章・渡辺嗟恵子編『共に育ちあう保育を求めて』（みらい 2003）
佐藤学『学校の挑戦—学びの共同体を創る—』（小学館 2006）
その他、講義中に適宜紹介する。

[6] その他

私語をする学生に対しては、とりわけ厳しく指導し減点する。また、初回到座席を指定する。

教育の方法と技術		担当教員	たなか よういち 田 中 洋 一
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2 単位	1 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼児教育の方法および教育者にとって必要なメディアリテラシーを教育工学的視点から身につけることを目標としています。

発想法・情報収集・課題分析について講義した後、幼児教育の身近な事例に関して、モデル化、プレゼンテーションの作成・実施、評価・改善の方法を解説します。教育メディア研究および多様なマルチメディア教材の制作方法を学ぶ過程において、身体障がい児・発達障がい児を含む幼児に対するコミュニケーション及び教育方法を身につけてほしい。最終的には、教授方略・マルチメディア活用法を基に、設定保育の設計・実施・評価・改善を行います。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 ガイダンス、発想法（マインドマップ）、LMS・SNS・eポートフォリオ
- 第 2 回 障がい理解
- 第 3 回 情報収集（ブレスト、KJ 法）、課題分析
- 第 4 回 e-紙芝居の設計（画像収集）
- 第 5 回 e-紙芝居の改善（アニメーション、画面切り替え、サウンド利用）
- 第 6 回 幼児教育モデルの設計（シュタイナー、モンテッソーリ等）
- 第 7 回 教授方略、幼児教育モデルの発表・評価・改善Ⅰ
- 第 8 回 幼児教育モデルの発表・評価・改善Ⅱ
- 第 9 回 幼児教育モデルの発表・評価・改善Ⅲ、ワークショップ、
子ども向け公共 CM 制作 1（コンセプト、タイトル）
- 第 10 回 子ども向け公共 CM 制作 2（絵コンテ作り、ストーリー作り）
- 第 11 回 子ども向け公共 CM 制作 3（画像収集・作成、スキャナ・デジカメ・タブレット）
- 第 12 回 子ども向け公共 CM 制作 4（ナレーション録音、音楽ファイル）
- 第 13 回 マルチメディア保育教材の設計・制作Ⅰ（指導案、教材設計）
- 第 14 回 マルチメディア保育教材の制作Ⅱ
- 第 15 回 マルチメディア保育教材の評価・改善（授業改善）、情報倫理

[3] 評価の方法

e-紙芝居課題：10%、幼児教育モデルの発表：20%、幼児教育に関するレポート：10%、CM 課題：30%、保育教材課題：20%、保育教材の指導案：10%で評価します。ただし、欠席・遅刻・早退、授業態度により減点する場合があります。詳細は、第 1 回目のガイダンスで説明します。

[4] 教 材

e-Learning 教材

[5] 参考図書

『30 時間でマスター Office 2010』（実教出版 2010）、阿部正平・阿部和子・オソノヨーコ『保育者のためのパソコン講座』（萌文書林 2006）、井上智義『視聴覚メディアと教育方法 Ver. 2』（北大路書房 2006）、井上智義『教育の方法—心理学をいかした指導のポイント—』（樹村房 2007）

[6] その他

質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワー等を利用するか、電子メールで連絡してください。

児童家庭福祉		担当教員	あお い ゆう き 青 井 夕 貴
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2 単位	1 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

保育所などの児童福祉施設に従事する保育士には、子どもの well-being の実現を目指した保育活動の実践が求められる。そのため、専門職として児童家庭福祉に関する基礎的な知識や技術が必要とされる。本授業では、①児童家庭福祉の意義および歴史的展開過程、②児童家庭福祉の法律・制度、③児童家庭福祉サービスの現状と課題、④児童家庭福祉の専門職としての保育士の役割、⑤児童家庭福祉の動向と展望等について理解を深める。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 オリエンテーション～現代社会と児童
- 第 2 回 児童の権利
- 第 3 回 児童家庭福祉の歴史
- 第 4 回 児童家庭福祉の法体系と制度
- 第 5 回 児童家庭福祉の専門機関・実施機関
- 第 6 回 児童家庭福祉の専門職・実施者
- 第 7 回 子育ての現状と子育て支援サービス
- 第 8 回 母子保健と児童の健全育成
- 第 9 回 多様な保育ニーズへの対応
- 第 10 回 児童虐待防止・DVと児童家庭福祉
- 第 11 回 社会的養護と児童家庭福祉
- 第 12 回 障害児と児童家庭福祉
- 第 13 回 非行と児童家庭福祉
- 第 14 回 関係機関・関係職種との連携とネットワーク
- 第 15 回 まとめ～児童家庭福祉の動向と展望

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。
 試験 50%、提出課題 30%、受講態度等 20%をもとに、総合評価をする。
 欠席や遅刻、早退は減点の対象とする。

[4] 教 材

西尾祐吾編 『児童福祉』（晃洋書房）
 ミネルヴァ書房編集部編 『保育小六法 2011』（ミネルヴァ書房）

[5] 参考図書

必要に応じて授業中に紹介する。

社会福祉		担当教員	おお 大	せき 関	けん 賢	じ 治
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択			
講義	2 単位	1 年次前期	必修			

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

保育士は平成 15 年の秋から国家資格となり、従来にもまして、社会福祉領域の一環を担う専門職として質の高い保育サービスの提供が求められています。そこで、福祉専門職としての保育実践を展開するにあたって、①社会福祉の理念・概念・対象とそのニーズ、②社会福祉の歴史、③社会福祉の制度、④社会福祉基礎幸造改革以来推進している社会福祉の課題等を理解することが必要であります。⑤また、教科書以外にビデオ教材を利用します。ビデオからは、生活問題の実際とその背景や当事者及び家族の声、支援者の声を聞くことができます。このような学習を通して、福祉専門職としての基礎作りを目的とします。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 第 1 章 現代社会と社会福祉（1）
- 第 2 回 第 1 章 現代社会と社会福祉（2）
- 第 3 回 第 2 章 社会福祉の歴史
- 第 4 回 第 3 章 社会福祉制度とその体系（1）
- 第 5 回 改革のグランドデザイン案に関する意見書「生存と魂の自由を」
- 第 6 回 第 3 章 社会福祉制度とその体系（2）
- 第 7 回 第 4 章 社会福祉従事者
- 第 8 回 児童虐待はなぜおきるのか？
- 第 9 回 第 5 章 社会福祉援助技術（利用者との信頼関係を作る）
- 第 10 回 第 6 章 社会福祉の動向（1）
- 第 11 回 第 6 章 社会福祉の動向（2）
- 第 12 回 第 7 章 今後の社会福祉
- 第 13 回 福祉サービスの利用と成年後見制度
- 第 14 回 セイフティーネット ワーキングプアと生活保護
- 第 15 回 ハンセン氏病を知り、偏見や差別をなくそう

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を行います。
レポート 45 点、試験 55 点として評価します。
欠席、遅刻、早退及び授業の妨げになる行為は減点します。

[4] 教 材

新・保育士養成講座編纂委員会/編『新・保育士養成講座 第 1 巻 社会福祉』

[5] 参考図書

印刷物を配布します。

発達心理学 I		担当教員	み 三 わ 和 まさる 優
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2 単位	1 年次前期	必修

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

この授業のねらいは、保育・教育にかかわる心理学の知識と子どもの発達に関する基礎知識を習得して、子どものへの理解を深めることです。そして、子どもは他者とのかかわりの中で発達することを具体例を通して学びます。さらに、発達のプロセスや初期経験の重要性を生涯発達の観点から理解し、教育・保育との関連について学習します。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 保育と心理学
- 第 2 回 発達心理学のとらえ方
- 第 3 回 発達の規定因
- 第 4 回 発達理論
- 第 5 回 初期経験の重要性 1 (乳幼児期の経験)
- 第 6 回 初期経験の重要性 2 (心理的な課題)
- 第 7 回 胎児期とその発達
- 第 8 回 新生児期とその発達
- 第 9 回 乳児期の発達と中間テスト
- 第 10 回 幼児期の発達
- 第 11 回 児童期の発達
- 第 12 回 青年期の発達
- 第 13 回 成人期・老年期の発達
- 第 14 回 生涯発達と発達援助
- 第 15 回 発達障害の子どもへの理解と対応

[3] 評価の方法

試験は中間テストと試験期間中に期末テストを行います。
配点は中間テスト 30 点、期末テスト 70 点です。
欠席、遅刻・早退および授業の進行の妨げになる行為については減点します。

[4] 教 材

改訂・保育士養成講座編集委員会『改訂 4 版 発達心理学』(社会福祉法人全国社会福祉協議会 2010)

[5] 参考図書

- J. G. プレムナー著 渡部雅之訳『乳児の発達』(ミネルヴァ書房 1999)
- 柏木恵子・藤永保監『臨床発達心理学 (全 5 巻)』(ミネルヴァ書房 2002)
- 柏木恵子他『新版 発達心理学への招待』(ミネルヴァ書 2005)
- J. ピアジェ著 中垣啓訳『ピアジェに学ぶ認知発達の科学』(北大路書房 2007)
- 平成 20 年告示『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』(チャイルド本社 2008)
- 無藤隆他編『よくわかる発達心理学』(ミネルヴァ書房 2009)

発達心理学Ⅱ		担当教員	おと べ たか ゆき 乙 部 貴 幸
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

保育所・幼稚園・認定こども園などにおける子どもの発達を援助するために、(1)子どもの心身の発達、(2)生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程の理解を通して、保育の実践と発達援助について考察して欲しい。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 新生児期～0 歳前半の運動発達
- 第 2 回 新生児期～0 歳前半の認知発達
- 第 3 回 0 歳後半の運動発達
- 第 4 回 0 歳後半の認知発達
- 第 5 回 乳児研究の最前線
(第 1 回～第 4 回の小テスト)
- 第 6 回 1～2 歳の運動発達
- 第 7 回 1～2 歳の認知発達
- 第 8 回 2～3 歳の運動発達
- 第 9 回 2～3 歳の認知発達
(第 6 回～第 9 回の小テスト)
- 第 10 回 数量概念の発達
- 第 11 回 「物語る」能力と読み書きの発達
- 第 12 回 遊びの発達とメディア
- 第 13 回 友達関係の発達と他者の心の理解
- 第 14 回 道徳性と自己制御、向社会的行動の発達
- 第 15 回 発達をつまづきと保・幼・小連携
(第 10 回～第 14 回の小テスト)

[3] 評価の方法

試験は小テスト 3 回、期末試験 1 回の計 4 回行う。期末試験は試験期間中に行う。小テスト (30%)、期末試験 (50%)、授業時に課す課題 (20%) により総合的に評価する。() 内は、評価にしめる比重を表す。欠席・遅刻・早退、および著しく受講態度が悪い場合は減点する。

[4] 教 材

必要に応じて教員がプリントを配布する。さらに、以下の 2 冊を所持しておくこと。
厚生労働省『保育所保育指針解説書』(厚生労働省, 2008)
文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2008)

[5] 参考図書

- 無藤隆・岩立京子 (編)『乳幼児心理学』(北大路書房 2009)
- 多鹿秀継・南憲治 (編)『児童心理学の最先端』(あいり出版 2009)
- 谷田貝公昭・高橋弥生『データでみる幼児の基本的な生活習慣』(一藝社 2009)
- 若井邦夫・高橋道子・高橋義信『グラフィック乳幼児心理学』(サイエンス社 2006)

教育心理学		担当教員	み 三	わ 和	まさる 優
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
講義	2 単位	1 年次前期	必修		

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

この授業の第一の目標は、教育・保育の過程にかかわる理学的法則や事実、およびより効果的な教育・保育を展開するために必要な教育心理学の基本的事項について理解することです。

第二の目標は、生涯発達の観点から教育・保育の関連を把握して、一人ひとりの発達に応じた教育的対応と、子育て支援の一環としての保育における相談にも対応できる能力を身につけることです。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 教育心理学とは何か、教育心理学の研究方法
- 第 2 回 現代社会と子どもの発達
- 第 3 回 発達のとらえ方
- 第 4 回 認知の発達
- 第 5 回 記憶のメカニズム
- 第 6 回 社会性・道徳性
- 第 7 回 パーソナリティ
- 第 8 回 学習への動機づけ、中間テスト
- 第 9 回 集団の理解
- 第 10 回 学習理論
- 第 11 回 学習方法と学習形態
- 第 12 回 発達障害と学習支援
- 第 13 回 知能の測定
- 第 14 回 知能の構造、知能の発達的变化
- 第 15 回 教育評価

[3] 評価の方法

試験は中間テストと試験期間中に期末テストを行います。

配点は中間テスト 30 点、期末テスト 70 点です。

欠席、遅刻・早退および授業の進行の妨げになる行為については減点します。

[4] 教 材

外山紀子・外山美樹『やさしい発達と学習』（有斐閣 2010）

[5] 参考図書

石井正子・松尾直博編『教育心理学－保育者をめざす人へ』（樹村房 2004）

無藤隆・麻生武編『保育ライブラリ 子どもを知る 教育心理学』（北大路書房 2004）

桜井茂男編『たのしく学べる最新教育心理学』（図書文化社 2004）

平成 20 年告示『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』（チャイルド本社 2008）

中沢潤編『よくわかる教育心理学』（ミネルヴァ書房 2008）

子どもの保健 I		担当教員	さいとうまさかず 齋藤正一
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	4 単位	1 年次通年	選択

[1] 授業のねらい

子どもの「こころとからだ」について話します。子どもと成人との違いを理解することがたいせつで、そのキーワードは「成長と発達」です。生まれる前から始まり成人に至るまでの心身の変化と身体各部の様子から、生活全般、病気や事故、日常生活から異常事態まで幅広い範囲にわたり、さらに子どもをとりまく社会的背景などについても解説します。受講者の皆さんはこれから育児・保育・教育・介護など、さまざまな機会に子どもやその保護者の人たちと接する機会が増えることでしょう。そういったときに役に立つと思われる知識や情報を提供するがこの授業のねらいです。

[2] 授業の計画

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 小児保健の基礎知識と成長・発達 | 16. 小児健康障害の概括 |
| 2. 発生・受精・胎内生活 | 17. 事故とトラブル |
| 3. 胎内での発育 | 18. 応急処置・救急処置 |
| 4. 発育の概要 | 19. 新生児の概要 |
| 5. 乳児、幼児、学童期、思春期 | 20. 正常の新生児 |
| 6. 成長のさま（骨や歯の成長） | 21. 未熟児・病的新生児 |
| 7. 成長の評価 | 22. 周産期障害 |
| 8. 発達の概要 | 23. 感染と感染性症 |
| 9. 運動の発達 | 24. 感染症の実例 |
| 10. 知覚・言語の発達 | 25. 感染の防止と対策 |
| 11. 自我と社会性 | 26. 神経疾患 |
| 12. 知能と発達の評価 | 27. アレルギー性疾患 |
| 13. 小児期の栄養と乳栄養 | 28. 小児特有の疾患（川崎病・腸重積など） |
| 14. 小児期の生活（概説） | 29. 虐待・委託保育・母子保健行政など |
| 15. 前半のまとめ | 30. 後半のまとめ |

[3] 評価の方法

前後期とも試験期間中に筆記試験（各 50 点満点）を行い、その合計点で評価する。正当な理由なしに遅刻・欠席が度重なるときは減点対象とします。前期後期とも最後の授業では、まとめと復習に加え、試験の案内もします。

[4] 教 材

今村栄一・巷野悟郎（編著）「新・小児保健 13 版」（診断と治療社 2010 年）

[5] 参考図書

必要に応じて講義中に紹介する。

[6] その他

前期のみ・後期のみ受講は不可。授業には教科書・スライドと、毎回配布するプリント（A4 サイズ）を使います。プリントがないと授業は理解できず、復習もできません。先に配布したプリントを後の講義で参照することもあるので、既に配布したものを含めて毎回持参するように。欠席等でプリントを貰いそびれた人にはバックナンバーを用意します。前期後期あわせて 40 枚程度になるので、ファイルフォルダー（A4 サイズ）を準備しておくとう便利です。

子どもの保健Ⅱ		担当教員	くさ か じゅん こ 日 下 純 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

子どもの心身の健康保持増進、事故、安全について、発達や生活習慣を踏まえて予防的な観点から根拠に基づいた活動ができるようにする。
また、子どもの家族や地域、他職種との連携にも理解を深め、子どもをめぐる現代社会の課題に配慮できるようにする。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 子どもの保健Ⅱの目的・ねらい
- 第 2 回 子どもの保育と保健・養護
- 第 3 回 子どもの成長発達 1
- 第 4 回 子どもの成長発達 2
- 第 5 回 子どもの日常生活の養護 1
- 第 6 回 子どもの日常生活の養護 2
- 第 7 回 子どもの日常生活の養護 3
- 第 8 回 健康観察と一般症状の看護
- 第 9 回 健康観察と一般症状の看護
- 第 10 回 集団保育における健康管理
- 第 11 回 集団保育における健康教育
- 第 12 回 健康教育発表
- 第 13 回 感染と予防
- 第 14 回 事故防止と安全
- 第 15 回 応急手当

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。
筆記試験・実技試験・レポート 50%、学習態度(授業進行の妨げになる行為は減点)・授業参加状況(欠席、遅刻・早退は減点) 50%

[4] 教 材

兼松百合子、遠藤巴子著『小児保健実習』(同文書院 2010)
ビデオ、DVD 等視聴し学習を深める。

[5] 参考図書

編集代表 巻野悟郎『保育のための救急傷病看護ハンドブック』(同文書院 2000)
白野幸子著『小児保健実習』(医歯薬出版 2002)
田中哲郎著『新 子どもの事故防止マニュアル』(診断と治療社 2001)
高内正子編著『小児保健実習ガイド』(建帛社 2005)

子どもの食と栄養 I		担当教員	くわのようこ 桑野洋子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

小児期の食は身体の発育・発達にとって重要であるばかりでなく、精神の発達を助長させるのにも大きな役割を果たしており、生涯にわたる健康の第一歩となる。

食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶと共に、その子供の成長にあった適切な栄養と食生活について学ぶ。

その中で栄養・食生活を支援する保育士の役割を理解し、子供たちに指導できる保育士を目指す。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 小児期の栄養と食生活の意義 1
- 第 2 回 小児期の栄養と食生活の意義 2
- 第 3 回 小児の発育・発達と食生活 1
- 第 4 回 小児の発育・発達と食生活 2
- 第 5 回 虫歯予防デイ(歯の栄養)
- 第 6 回 栄養に関する基本的知識 — 3 大栄養素 1
- 第 7 回 栄養に関する基本的知識 — 他の栄養素
- 第 8 回 栄養に関する基本的知識 — 食事摂取基準
- 第 9 回 妊娠・授乳期における栄養と食生活 1
- 第 10 回 妊娠・授乳期における栄養と食生活 2
- 第 11 回 乳児期の栄養と食生活 1
- 第 12 回 乳児期の栄養と食生活 2
- 第 13 回 乳児期の栄養と食生活 3
- 第 14 回～第 15 回 上記内容に関する調理実習(離乳食)

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。

試験 70%、その他(課題レポート・小テスト) 30%を総合評価する。

欠席、遅刻、早退および授業進行の妨げになる行為(私語、携帯電話など)は減点する。

[4] 教 材

高野陽他著『小児栄養 子どもの栄養と食生活』(医歯薬出版)

その都度、資料をプリントして配布する。

[5] 参考図書

坂本元子編『子どもの栄養・食教育ガイド』(医歯薬出版)

厚生労働省策定『日本人の食事摂取基準』(第一出版 2010)

『五訂日本食品成分表』(一橋出版)

[6] その他

調理実習の日程は授業時間中に連絡する。

子どもの食と栄養Ⅱ		担当教員	くわのようこ 桑野洋子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

乳幼児が健康でたくましく育つために、栄養は重要な問題であり、成長にあった適切な摂取が大切である。また、近年食に対する関心が高まり、いろいろな問題点を背景に食育に関する取り組みが重要視されています。

集団での食事の取り方や疾病があるときの対応についても学びます。

その中で栄養・食生活を支援する保育士の役割を理解し、子供たちに指導できる保育士を目指す。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 幼児期の栄養と食生活 1
- 第 2 回 幼児期の栄養と食生活 2
- 第 3 回 幼児期の栄養と食生活 3
- 第 4 回～第 5 回 上記内容に関する調理実習（幼児食）
- 第 6 回 児童福祉施設における食生活 1
- 第 7 回 児童福祉施設における食生活 2
- 第 8 回 学童期・思春期の栄養と食生活
- 第 9 回～第 10 回 上記内容に関する調理実習（学童食）
- 第 11 回 小児期の疾病と食生活 1
- 第 12 回 小児期の疾病と食生活 2
- 第 13 回 障害をもつ小児の食生活
- 第 14 回 食育基本法と食育
- 第 15 回 食育基本法と食育一まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を実施する。

試験 70%、その他（課題レポート・小テスト）30%を総合評価する。

欠席、遅刻、早退および授業進行の妨げになる行為（私語、携帯電話など）は減点する。

[4] 教 材

高野陽他著『小児栄養 子どもの栄養と食生活』（医歯薬出版）

その都度、資料をプリントして配布する。

[5] 参考図書

坂本元子編『子どもの栄養・食教育ガイド』（医歯薬出版）

厚生労働省策定『日本人の食事摂取基準』（第一出版 2010）

『五訂日本食品成分表』（一橋出版）

[6] その他

調理実習の日程は授業時間中に連絡する。

教育課程総論		担当教員	まつ 松	かわ 川	けい 恵	こ 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択			
講義	2単位	1年次前期	必修			

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

教育課程総論は、幼児教育現場(幼稚園・保育所)のかかえている諸問題をさまざまな角度から、また、いろいろな視点から、考察し研究していくものである。

この授業では、『幼稚園教育要領』及び『保育所保育指針』をもとに、幼児期の教育・保育についての基本的な考え方、教育課程・保育課程と指導計画の意義と連関、編成・作成の方法等について理解することを目標としている。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 幼児教育の現状① (保育の意義)
- 第 2 回 幼児教育の現状② (保育所と幼稚園、認定こども園)
- 第 3 回 『幼稚園教育要領』及び『保育所保育指針』の歴史的変遷
- 第 4 回 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』改訂の基本的な考え方
- 第 5 回 乳・幼児期の特性と幼稚園教育・保育所保育の役割
- 第 6 回 幼稚園教育・保育所保育の基本
- 第 7 回 教育課程・保育課程の意義と編成
- 第 8 回 ねらい及び内容の考え方と領域の編成
- 第 9 回 ねらい及び内容
- 第 10 回 環境の構成と保育の展開
- 第 11 回 指導計画の考え方
- 第 12 回 指導計画の作成に当たっての留意事項
- 第 13 回 指導計画の作成に当たって特に留意する事項
- 第 14 回 保育の省察 (日々の記録から幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録へ)
- 第 15 回 幼稚園における学校評価・保育士及び保育所の自己評価

[3] 評価の方法

試験期間中の試験及びレポート、受講態度等で評価する。

試験：60点

レポート：40点

欠席、遅刻、早退及び授業進行の妨げになる行為(私語・携帯電話など)については、減点する。

[4] 教 材

文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館 2008)

厚生労働省『保育所保育指針解説書』(フレーベル館 2008)

倉橋惣三著『育ての心』(上) 倉橋惣三文庫③ (フレーベル館)

小泉裕子・田川悦子編著『保育原理～保育者をめざすあなたへ～』(学芸図書 2009)

[6] その他

授業は積極的に参加し、また、疑問を感じたことは、おおいに質問をすること。

提出物は、期限を正確に守ること。

保育内容総論		担当教員	いし かわ あき よし 石 川 昭 義
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次前期又は後期	選択

[1] 授業のねらい

保育所及び幼稚園において展開される保育の内容と指導法について、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における保育の内容の全体像を把握し、方法論との相互関連性を学ぶ。保育の内容は、子どもが環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることの意義を理解し、その保育指導法として、遊びを通じた総合的な指導のあり方を学ぶ。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 オリエンテーション 授業の概要、留意事項、評価方法について
- 第 2 回 現代の保育と保育内容 学校教育法と幼稚園教育要領
- 第 3 回 幼稚園教育の基本 環境を通して行う教育
- 第 4 回 幼稚園教育における保育内容の歴史
- 第 5 回 幼稚園教育における 5 領域の保育内容
- 第 6 回 保育所保育の特性と保育所保育指針
- 第 7 回 「養護に関わるねらい及び内容」
- 第 8 回 「教育に関わるねらい及び内容」
- 第 9 回 幼稚園と保育所の保育内容の比較
- 第 10 回 保育内容と保育指導法(1) 間接教育の原理
- 第 11 回 保育内容と保育指導法(2) 現代の保育観と保育方法の基本
- 第 12 回 幼稚園における教育課程と指導計画
- 第 13 回 保育所における保育課程と指導計画
- 第 14 回 保育内容と評価 (幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録)
- 第 15 回 まとめ
- 第 16 回 定期試験

[3] 評価の方法

出席状況と中間レポートと試験期間中の試験とで評価する。
欠席、遅刻、早退及び授業進行の妨げになる行為(私語・携帯電話など)については、減点する。

[4] 教 材

太田悦生編『新・保育内容総論 [第2版]』(みらい 2010)

[5] 参考図書

授業中に適宜紹介する。

[6] その他

授業ではテキストの他に「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」を参照しますので、毎回用意してください。

保育内容研究（健康Ⅰ）		担当教員	えびす 戎	とし 利	みつ 光
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
演習	1 単位	1 年次前期又は後期	選択		

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼児の身体的な健康（生活リズムの乱れによる健康障害など）を中心に、幼児の精神的な健康（神経系の発達など）について解説する。さらに、幼児期における十分な睡眠・バランスのよい食習慣や運動習慣・休息などの重要性をはじめ、幼児期に必要な栄養素や幼児期に著しく向上する調整力（運動能力）などについても、担当者（戎：教育学博・医博）の研究結果などを紹介しながら、わかりやすく論究する。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 幼児期の健康科学総論
- 第 2 回 幼児期の生活リズム
- 第 3 回 生活リズムの乱れによる健康障害
- 第 4 回 幼児期の食習慣
- 第 5 回 幼児期に必要な栄養素とその働き
- 第 6 回 食習慣の乱れによる健康障害
- 第 7 回 幼児期の運動習慣
- 第 8 回 幼児期に著しく向上する調整力（運動能力）
- 第 9 回 調整力向上の意義
- 第 10 回 運動習慣の乱れによる健康障害
- 第 11 回 幼児期の活動と休息
- 第 12 回 幼児期の身体発達
- 第 13 回 神経系の発達
- 第 14 回～第 15 回 幼児の健康障害

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施せず、講義中の試験、質問への解答、課題発表を各々、50%、30%、20%の割合で評価する。
授業態度が著しく良くない場合には減点する。

[4] 教 材

戎 利光『子どものからだの健康科学』（不昧堂出版 2000）

[5] 参考図書

- 戎 利光『わかりやすい健康の生理学・衛生学』（不昧堂出版 2002）
- 戎 利光・戎 弘志『ライフスタイルと健康の科学』（不昧堂出版 2001）
- 戎 利光『子供のからだの健康学』（あいわ出版 1987）
- 戎 利光『親と子でつくるからだ健康学』（あいわ出版 1988）
- 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2008）
- 厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館 2008）

保育内容研究（環境）		担当教員	前田正紀
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

本授業では、保育内容の領域「環境」について学ぶ。この領域は、幼児が身近な環境に興味・関心を抱き、豊かな心情やそれらに積極的にかかわっていきこうとする力を育てることを目的としている。そこで、対象となる環境に直接触れる機会を多くし、実践的な指導力の養成を目指す。

また、今日喫緊の課題となっている幼児期の環境教育に関しては、指導者自身に求められている資質、すなわち、自然に対する豊かな感性が醸成されるような授業展開にも努めたい。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 幼児教育と領域「環境」
- 第 2 回 植物・動物とかがわる力を育てる－1 ①春の草花と遊び
- 第 3 回 植物・動物とかがわる力を育てる－2 ②植物の栽培と子どもの成長
- 第 4 回 環境の構成と教師の役割
- 第 5 回 季節の行事にかかわる活動
- 第 6 回 気象や天体にかかわる活動
- 第 7 回 植物・動物にかかわる力を育てる－3 ③昆虫の観察
- 第 8 回 幼児期の環境教育
- 第 9 回 植物・動物にかかわる力を育てる－4 ④秋の草花と野外活動
- 第 10 回 植物・動物にかかわる力を育てる－5 (①～④の講評とまとめ)
- 第 11 回 物にかかわる力を育てる－1 フレーベルとその業績を中心に
- 第 12 回 物にかかわる力を育てる－2 ⑤動くおもちゃの製作
- 第 13 回 数量・図形、情報等にかかわる活動
- 第 14 回 地域とかがわる活動
- 第 15 回 幼児教育の新しい方向と展望

なお、授業の進行にあわせて、①春の草花と遊び、②植物の栽培、③昆虫の観察、④秋の草花と野外活動、⑤動くおもちゃの製作、の5つの課題について、レポートまたは製作物を提出する。

[3] 評価の方法

試験期間中の試験、レポート等の提出物などで評価する。

試験 50%、レポート等の提出物 40%、学習態度(授業進行の妨げになる行為は減点)・授業参加状況(欠席、遅刻・早退は減点)10%の割合で評価する。

[4] 教 材

小田豊監修、奥井智久・芦田宏編著『領域環境 新子どもと環境 (理論編)』(三晃書房)
プリント資料

[5] 参考図書

文部省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説』

保育内容研究（言葉）		担当教員	まえ だ けい こ 前 田 敬 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

言葉は思考の道具、コミュニケーション、行動の調整を果たす重要な手段である。保育者として必要な、言葉の発達に関する理論を学び、実践準備を整える場とする。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 保育者のことばはどうあるべきか
- 第 2 回 こどものことばの発達を促す援助
- 第 3 回 ことばの記憶
- 第 4 回 ことばの発達とことば、ことばの機能
- 第 5 回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の言葉の「ねらい」と「内容」
- 第 6 回 幼稚園教育要領・保育所保育指針と指導、文字環境
- 第 7 回 子どものことばの発達概観(1)
- 第 8 回 子どものことばの発達概観(2)
- 第 9 回 自分自身の言葉を振り返る
- 第 10 回 子どものことば環境
- 第 11 回 ことばを育てる指導案作成と発表 1 回目
- 第 12 回 ことばを育てる指導案作成と発表 2 回目
- 第 13 回 ことばを育てる指導案作成と発表 3 回目
- 第 14 回 ことばを育てる指導案作成と発表 4 回目
- 第 15 回 ことばを育てる指導案作成と発表 5 回目

[3] 評価の方法

試験期間中の試験、授業中の実践発表、絵本リスト提出を総合的に判断して評価する。ただし、受講態度によっては、減点することもある。

[4] 教 材

新時代の保育双書『保育内容ことば』（みらい）

[5] 参考図書

- 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- 厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）
- 岡木夏木『子どもとことば』（岩波書店）
- 清水エミ子『園児と心で握手』（学陽書房）
- 勅使千鶴『子どもの発達と遊びの指導』（ひとなる書房）

保育内容研究（表現Ⅱ）		担当教員	くりすかつえ 栗 栖 勝 栄
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

子ども達は、生活の中で様々なものの美しさなどを感じとり、感じたことや考えたことを自分なりに表現する。この科目は、このような豊かな感性と表現する意欲と創造性を育てるための適切な援助が出来る幼児教育者としての資質を身につけることを目的にしている。特に、子ども達が音を聞き、感じ、理解し、その上で楽器に触ってみる楽しさを身体全体で味わい、その喜びの中で音楽的表現をはぐくむという指導法である「リトミック」を学習する。幼稚園・保育園で実践・応用できる内容で、リズム・ピアノ演奏を含む幼児を対象とする指導法及び基礎的な動きを中心に学ぶ。

また、本授業の到達目標は幼稚園・保育園のための指導資格認定試験に合格できるレベルに到達することである。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 リトミックについての説明と体験
- 第 2 回 基礎的な動き① 基礎リズム① (2 拍子)
強弱・テンポ・空間・アクセント①
- 第 3 回 3 歳児指導法(1 学期)
- 第 4 回 リズムの演奏法(3 歳児指導法：1 学期)
- 第 5 回 基礎的な動き② 基礎リズム② (2 拍子) 拍子①
- 第 6 回 3 歳児指導法(2 学期)
- 第 7 回 リズムの演奏法(3 歳児指導法：2 学期)
- 第 8 回 基礎リズム③ (2 拍子) 拍子②
- 第 9 回 3 歳児指導法(3 学期)
- 第 10 回 リズムの演奏法(3 歳児指導法：3 学期)
- 第 11 回 基礎リズム④ (3 拍子・4 拍子)
- 第 12 回 リズムカノン①の導入 リズムフレーズ① (2 拍子・3 拍子)
- 第 13 回 リズムと指導法の復習とまとめ
- 第 14 回 実技試験
- 第 15 回 授業のまとめ

[3] 評価の方法

実技のため、試験期間中の試験は実施しない。
資格認定試験の成績および、受講態度、出席状況等で評価する。

[4] 教 材

『幼稚園・保育園のためのリトミック 3 歳児』（リトミック研究センター出版）
カラーボード（4 色 4 枚セット）・スティック・試験練習用 CD

[5] 参考図書

岩崎光弘著『リトミックってなあに』『こどもがぐんぐん伸びる音楽あそび』
厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）

[6] その他

動きやすい服装で、裸足または底の薄い上履き（スニーカーは不可）で受講してください。
ヒールは禁止。

保育内容研究（子どもの文化）		担当教員	まえ だ けい こ 前 田 敬 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
講義	2単位	1年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

子どもの文化環境や具体的文化財を理解する講座である。子ども達の発達を促進させるための媒体物（絵本・各種人形劇・パネルシアター・玩具・お話・手あそび・歌あそび・絵カードあそびなど）の史的背景・製作法・演じ方などを学習し、子どもを取巻く日常生活・保育環境の中でそれらをどのように生かすか、その役割・実践なども含めて身に付けていく。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 児童文化とは何か・子どもの遊びの変化
- 第 2 回 保育における児童文化・「おはなし」
- 第 3 回 「絵本」の読み聞かせの実践法・保育への展開
- 第 4 回 「絵本」の種類、絵本の選び方
- 第 5 回 「人形遊び」「ペープサート」（箱パペット、紙袋パペット）の保育への展開
- 第 6 回 「人形遊び」「ペープサート」（箱パペット、紙袋パペット）の保育への展開
- 第 7 回 「人形遊び」「ペープサート」の実演
- 第 8 回 「人形遊び」「ペープサート」の実演
- 第 9 回 「布おもちゃ」の保育への展開
- 第 10 回 「布おもちゃ」の保育への展開
- 第 11 回 「布おもちゃ」の保育への展開
- 第 12 回 「パネルシアター・エプロンシアター」とは
- 第 13 回 「パネルシアター・エプロンシアター」の制作
- 第 14 回 「パネルシアター・エプロンシアター」の保育への展開
- 第 15 回 「劇遊び」・発表会、まとめ

[3] 評価の方法

授業で行う個人やグループによる制作や実践と、レポートによって評価する。

[4] 教 材

小川清美編『演習児童文化～保育内容としての実践と展開』（萌文書林）

[5] 参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2008）
厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館 2008）

保育内容(コーラス)		担当教員	さかもとるみ おおくぼこうじ 坂本流美・大久保功治
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1単位	1年次後期	選択

[1] 授業のねらい

コーラスを通して歌うことの楽しさや発声の基礎を身につけ、幼児へのコーラス指導法を学ぶ。
(坂本担当)

楽器と一緒に演奏することでアンサンブルの楽しさを知り、幼児の音楽活動の充実を目指す。
(大久保担当)

[2] 授業の計画

第 1 回～第 3 回	体の仕組みと発声・幼児期のコーラス指導法
第 4 回	発声とパート分け
第 5 回～第 8 回	作品の譜読みと練習
第 9 回～第 12 回	楽器とコーラスのクラスに分かれて練習
第 13 回～第 14 回	合唱と合奏の合同練習
第 15 回	発表

[3] 評価の方法

授業への参加及び発表会への取り組みを重視し評価する。

出席してコーラスを通して歌うことに意義があるので、欠席を減点の対象とする。

[4] 教 材

随時指示する。

保育内容(ミュージカル)		担当教員	いぬいのりこ 乾典子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1単位	1年次後期	選択

[1] 授業のねらい

身体表現の方法を、ミュージカルという形で創作・発表することを体験する。創作の方法である題材選び・台本創作・選曲・ダンス創作・衣装考案・舞台演出法などを専門的・総合的に学び、今後の保育現場に生かすことを目標とする。

なお、この授業でのミュージカルは、ダンス表現が軸となる。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 ミュージカル創作法の概要と演出法
題材決定
- 第 2 回 台本作り
- 第 3 回 ダンス曲と歌唱曲の選曲、音源の選択
- 第 4 回 ダンス創作 ①
- 第 5 回 ダンス創作 ②
- 第 6 回 ダンス創作 ③
- 第 7 回 ダンス創作 ④
- 第 8 回 ダンス創作 ⑤
- 第 9 回 ダンス創作 ⑥
- 第 10 回 台詞・演技の表現演習 衣装考案
- 第 11 回 実技テスト(配役オーディション)
ミュージカル全体の組み立て ①
- 第 12 回 ミュージカル全体の組み立て ②
- 第 13 回 ミュージカル全体の組み立て ③
- 第 14 回 照明についての説明 全体練習
- 第 15 回 ミュージカル発表 (ビデオ撮影)

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施せず、実技とレポートと授業期間に発表を行う。

実技(30%) レポート(30%) 創作への取り組み(20%) 発表(20%)

また欠席・遅刻・早退を減点の対象とする。

[4] 教 材

必要に応じて、資料を配布する。

[5] 参考図書

特になし

[6] その他

この授業は基本的に実技であり、運動のできる服装で受講すること。

保育内容（平面造形）		担当教員	にし 西	お 尾	あきら 章
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
演習	1 単位	1 年次後期	選択		

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼児が扱える多種の表現材料（描画材、線材・面材・塊材）についての知識と技術を習得し、その総合的表現として保育室の環境構成の一部をなす壁面作品等の制作に取り組み、平面造形の表現力の向上を図る。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 描画材、線材・面材・塊材について
- 第 2 回 描画材、線材・面材・塊材を用いた自由製作①
- 第 3 回 描画材、線材・面材・塊材を用いた自由製作②
- 第 4 回 紙の質感の変化
- 第 5 回 色の調和
- 第 6 回 構図・構成（絵本から）
- 第 7 回 作品展示の基本
- 第 8 回 壁面制作の準備：グループ分け他
- 第 9 回 下絵の検討と完成
- 第 10 回 壁面製作①（製作開始）
- 第 11 回 壁面製作②
- 第 12 回 壁面製作③
- 第 13 回 壁面製作④
- 第 14 回 壁面製作⑤（作品完成）
- 第 15 回 これまでの振り返り

[3] 評価の方法

実技中心となるため、作品で評価する。（作品 100 点）

[4] 教 材

随時教員が用意する。

[5] 参考図書

- ・『とびっきり立体壁面—動かして遊べる壁面構成のアイデア集—』
島田明美：著、チャイルド本社、2003 発行
- ・『布で作るかわいい壁面飾り』いしかわまりこ編著、いかだ社、2006 年発行
- ・『年齢別 3・4・5 歳児の壁面構成』辻正宏・川並知子 著、小学館、2004 年発行

保育内容（保育の文化）		担当教員	たにでちよこ 谷出千代子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

子どもの世界では、大人にはなんでもないことが、新鮮だったり、感動的だったり、あるいは困惑したりするものである。それは、子どもにとっていずれも初めての体験だからであろう。

そこで、保育者自身が具体的な児童文化財を製作して発表したり、他者の実践を鑑賞して、子どもの緊張・感動を擬似体験、理解し、心の財産を蓄積していくことが大切である。

本年度は、ベースに「絵本」を置き、絵本の読み聞かせと分析、そこから連想された文化財を各自が製作、実演などを通して、実践発表と鑑賞を重ねる。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 児童文化財の位置づけ。絵本分析の視点楽しみ方。発表者グループ分け
- 第 2 回 絵本分析① 赤ちゃん絵本（絵本で遊ぶ製作）
- 第 3 回 赤ちゃん絵本の楽しみ 学生のグループ別発表
- 第 4 回 絵本分析② くり返し絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
- 第 5 回 くり返し絵本の楽しみ 学生のグループ別発表
- 第 6 回 絵本分析③ 昔話絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
- 第 7 回 昔話絵本の楽しみ 学生のグループ別発表
- 第 8 回 絵本分析④ 純絵本・科学絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
- 第 9 回 純絵本・科学絵本の楽しみ 学生のグループ別発表
- 第 10 回 絵本分析⑤ 思春期を考える絵本・戦争を考える絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
- 第 11 回 思春期を考える絵本・戦争を考える絵本の楽しみ 学生のグループ別発表
- 第 12 回 絵本分析⑥ 高齢化社会の絵本（絵本で遊ぶ製作・実践）
- 第 13 回 高齢化社会の絵本の楽しみ 学生のグループ別発表、絵本の選び方
- 第 14 回 絵本分析⑦ ジェンダーフリーの世界（絵本で遊ぶ製作・実践）
- 第 15 回 ジェンダーフリーの絵本の楽しみ 学生のグループ別発表、与え方
- 第 16 回 レポート作成時間とし、当該時間内にて報告・提出する。

[3] 評価の方法

試験期間中の時間に、その場で資料を基にレポートを書く。評価の 2 割。

授業内のグループ別実践発表の評価で 7 割。

学習態度(授業進行の妨げになる行為は減点)・授業参加状況(欠席、遅刻・早退は減点)1 割、で点数化して評価する。

[4] 教 材

その都度、製作に関する関係図書、資料を配付する。

[5] 参考図書

その都度紹介する。

乳児保育 I		担当教員	とよしままさえ 豊島雅恵
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1 単位	1 年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

乳児保育の基本となる考え方や、乳児保育の意義を理解する。また、乳児の健康や安全の確保、発達の保障の観点から乳児が保育される場を理解し、乳児の発達に必要な人的環境や物的環境、自然環境の重要性と、子どもと生活を共にする保育士等の役割や保護者支援、地域支援について具体的な事例を通して学習する。乳児保育の基礎知識を学ぶことにより倫理観や人間性及び責任感を理解し、保育士等に求められる専門性を自覚する。また、意欲や喜びを持って保育に取り組めるための手遊びや、歌遊び、折り紙遊び、子ども達と仲良くなれる話術の育成にも努めていく。

[2] 授業の計画

1. 乳児保育の理念と役割

- 第1回 乳児保育の理念と乳児保育一般化への経緯
- 第2回 乳児保育の役割と機能
- 第3回 乳児の生活環境

2. 乳児保育の場

- 第4回 家庭における乳児保育
- 第5回・第6回 保育所における乳児保育
- 第7回 乳児院や認可外保育施設における乳児保育
- 第8回 家庭的保育等における乳児保育

3. 乳児の発達と保育

- 第9回・10回・11回・12回 乳児・低年齢児の生活と遊び
- 第13回 乳児保育に求められること
- 第14回・15回 乳幼児の発達過程

※授業の終わりに手遊び、折り紙等の実技を実施

[3] 評価の方法

- ・試験期間中に試験は実施せず、夏季休業中にレポートを課す。
- ・レポート（75点） 必要に応じて提出する小論文（25点）
- ・欠席、遅刻、早退及び授業進行に妨げになる行為〔私語、携帯電話〕は減点とする。

[4] 教 材

- ・保育所保育指針解説書
- ・必要に応じてプリントを配付する
- ・参考文献は 糸 幸男著者 「乳児保育」

[5] 参考図書

- ・保育所保育指針解説書
- ・糸 幸男編『乳児保育』
- ・阿部和子編『乳児保育の基本』

乳児保育Ⅱ		担当教員	とよしままさえ 豊島雅恵
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	1単位	1年次後期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

乳児、低年齢児（おおむね6カ月～おおむね2歳）の発達の特徴と、乳児保育の「ねらい」や「保育の内容」を学び乳幼児期の特性について理解する。また、乳幼児の発達過程を踏まえた保育の内容や環境構成や保育士等の援助のあり方を学びながら、月間指導計画の作成、デイリープログラムの作成等で、指導計画作成上の視点や保育士等の自己評価、記録のポイントを学習する。また、ビデオ等にて実際の保育現場の状況を観賞することで、子どもと保育士の関わりや保護者との連携、地域との連携等を学習する。

子どもが喜ぶ手遊びや、歌遊び、折り紙遊び、子ども達と仲良くなれる話術の育成にも努めていく。

[2] 授業の計画

1. 3歳未満児の発達と保育内容

- 第1回 乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり
- 第2回・3回 6カ月未満児の発達と保育内容
- 第4回・5回 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容
- 第6回・7回 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容
- 第8回 2歳児の発達と保育内容

2. 乳児保育の実際

- 第9回・10回 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価
- 第11回・12回 発達を促す生活と遊びの環境
- 第13回 職員間の協働

3. 乳児保育における連携

- 第14回 保護者とのパートナーシップ
- 第15回 保健・医療機関・家庭的保育・地域子育て支援等との連携

※授業の終わりに手遊び、折り紙等の実技を実施

[3] 評価の方法

- ・試験期間中に試験を行う。
- ・試験（100点）
- ・欠席、遅刻、早退及び授業進行に妨げになる行為〔私語、携帯電話〕は減点とする。

[4] 教材

- ・保育所保育指針解説書
- ・必要に応じてプリントを配付する
- ・参考文献は 糸 幸男著者 「乳児保育」

[5] 参考図書

- ・保育所保育指針解説書
- ・糸 幸男編『乳児保育』
- ・阿部和子編『乳児保育の基本』

音楽		担当教員	かわのひさとし 河野久寿他
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2 単位	1 年次通年	必修

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼児教育の現場において有効な音楽的基礎知識、および演奏能力の習得を目的とする。具体的には、譜表の読み方に始まり、音の高さやリズム、そして音階や和音などといった基本的な音楽の要素について、理論と実習の両面から総合的に学んでゆく。

[2] 授業の計画

・理論	・ソルフェージュ
第 1 回 音名	第 2 回 音階
第 3 回 譜表	第 4 回 2 度音程
第 5 回 音価と拍子	第 6 回 2 拍子
第 7 回 音程(1)	第 8 回 4 拍子
第 9 回 音程(2)	第 10 回 切分音
第 11 回 音階	第 12 回 3 拍子
第 13 回 調と調号	第 14 回 3 度音程
第 15 回 記号	第 16 回 既習の総合演習
第 17 回 三和音	第 18 回 付点音符とスラー
第 19 回 七の和音	第 20 回 4 度音程
第 21 回 コードネーム(1)	第 22 回 拍子の分割(1)
第 23 回 コードネーム(2)	第 24 回 拍子の分割(2)
第 25 回 和音の連結	第 26 回 5 度音程
第 27 回 移調	第 28 回 総合演習
第 29 回 伴奏法	第 30 回 総合演習

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を行う。

前期試験：理論（100 点）・ソルフェージュ（100 点）

後期試験：理論（100 点）・ソルフェージュ（100 点）の平均点にて最終評価。

[4] 教 材

理論：授業担当者が作成した資料

教芸音楽研究グループ『音楽通論』（教育芸術社 1994）

ソルフェージュ：『コールユーブングェン』

：田口雅夫・高崎和子編『幼稚園・保育園でのアンケートから生まれた簡易伴奏による実用こどものうた』（カワイ出版 2007 年）

[5] 参考図書

理論：石桁真礼生他『楽典 理論と実習』（音楽之友社 1965/04）

音楽（器楽Ⅰ）		担当教員	なかのけんや他
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
演習	2単位	1年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼児の発達に合せて、美しい音楽を共に楽しめるようにここではピアノ実技をとり上げます。
 前期は、「楽譜を正確に読む」ことと「ピアノを自然に弾く」ことを主として、「練習⇄レッスン→発表」を行います。友人の取り組みからも多く吸収してください。1グレードの人は教本「おとなのピアノレッスン」44番まで進めるよう計画しましょう。又、後期は「曲に表現されているものを感じ、自ら喜びを持って弾ける」ように、アドバイスを元に工夫を重ね、（1グレードの人は）教本67番まで終了しましょう。1グレードの人は、グループレッスンと個人レッスンを受けます。

[2] 授業の計画

ピアノ実技習得度に応じて、短期間で実力が身につくように10のグレードに分かれて履修します。下記に、1グレードの計画の例を記します。他の9つのグレードについては、器楽1レッスンカードを参照して下さい。

第1回 概要の説明とグレード決め	第16回 イ調長音階
第2～3回 鍵盤と譜表の関係・音符と休符・拍子記号・全音符から4分音符までの練習曲	第17～18回 三連符・16分音符までの練習曲
第4回 8分音符までの練習	第19～20回 イ調短音階
第5～6回 付点音符	第21回 へ長調音階
第7回 復習	第22回 復習
第8回 仕上げと発表	第23回 仕上げと発表
第9回 ハ調長音階	第24回 へ調長音階
第10～11回 ハ調・ト調長音階	第25～26回 付点音符・臨時記号・スタカート・前打音等を学ぶための練習曲
第12回 臨時記号	第27回 変ロ調長音階
第13回 ニ調長音階	第28回 複付点音符・半音階の練習
第14回 復習	第29回 復習
第15回 仕上げと発表	第30回 仕上げと発表

[3] 評価の方法

実技が中心となるため、授業期間中に実技試験（前期2回50点、後期2回50点）を実施します。また、授業態度等により減点します。
 その他、グレード毎の基準点を決め評価に加味し、グレード毎の認定曲数に達しない場合は再履修となります。

[4] 教材

『NEWおとなのピアノレッスン』、器楽Ⅰレッスンカード

[5] 参考図書

レッスンカードに記載されたグレード毎の履習曲に応じて図書館備付のCD及び楽譜を利用して下さい。

[6] その他

試験時には、ミュール・スリッパ・ブーツ・ジャージ・スウェットは目的に合わないため禁止、又、カード忘れ、遅刻の場合も時間延長になるため受けられません。
 履修の詳細は、器楽Ⅰレッスンカードを読んで下さい。

図画工作		担当教員	にし 西	お 尾	あきら 章
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
演習	2 単位	1 年次通年	必修		

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

幼児の造形活動に関する多種の表現方法についての知識と技法を習得し実践力の向上を図る。

[2] 授業の計画

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 第 1 回 授業説明・材料購入 | 第 16 回 立体動物面（基本形練習） |
| 第 2 回 水彩絵の具の扱い方練習 | 第 17 回 立体動物面（制作） |
| 第 3 回 絵手紙 | 第 18 回 立体動物面（完成） |
| 第 4 回 クレパス（スクラッチ） | 第 19 回 紙の貼り絵（絵本の一場面制作） |
| 第 5 回 クレパス（カーボン紙） | 第 20 回 紙の貼り絵（完成） |
| 第 6 回 クレパス（はじき絵） | 第 21 回 紙で羽ばたく鳥を作る |
| 第 7 回 色鉛筆の扱い方練習 | 第 22 回 模造紙で自由画 |
| 第 8 回 色鉛筆（イラスト開始） | 第 23 回 線で遊ぶ |
| 第 9 回 色鉛筆（イラスト完成） | 第 24 回 筆を作る |
| 第 10 回 略画（制作） | 第 25 回 絵の具の準備の方法 |
| 第 11 回 略画（完成） | 第 26 回 ちぎり絵（製作の基本練習） |
| 第 12 回 型押しあそび（野菜） | 第 27 回 ちぎり絵（下絵完成） |
| 第 13 回 絵の具の技法 1 | 第 28 回 ちぎり絵（製作①） |
| 第 14 回 絵の具の技法 2 | 第 29 回 ちぎり絵（製作②） |
| 第 15 回 絵の具の技法からの想像画 | 第 30 回 ちぎり絵（完成） |

[3] 評価の方法

実技が中心となるため、作品で評価する。（作品 100 点）

[4] 教 材

学生は第 1 回目の授業時に各種描画材料を全員購入する。

[5] 参考図書

課題内容に応じて、随時資料を配布する。

国語		担当教員	まえ 前	だ 田	けい 敬	こ 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期		必修・選択		
講義	2単位	1年次前期		必修		

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

保育者として必要な国語表現力を高める。「読む・書く・話す・聴く」力を総合的に向上させるために様々な活動をする。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 保育者として、望ましい国語表現をするために (1) 傾聴
- 第 2 回 保育者として、望ましい国語表現をするために (2) 傾聴
- 第 3 回 話し方の基本・あいさつ
- 第 4 回 グループ活動 (1) 絵本・紙芝居などの実演
- 第 5 回 グループ活動 (2) 絵本・紙芝居などの実演
- 第 6 回 グループ活動 (3) 絵本・紙芝居などの実演
- 第 7 回 敬語・実習先との話し方
- 第 8 回 子どもへの言葉かけ、保護者との話し方
- 第 9 回 文章の基本的な書き方、レポートの書き方
- 第 10 回 手紙の書き方
- 第 11 回 エッセイの書き方 (1)
- 第 12 回 エッセイの書き方 (2)
- 第 13 回 感想や意見のまとめ方
- 第 14 回 実習日誌の書き方
- 第 15 回 まとめ

[3] 評価の方法

試験期間中に試験を行う。
 試験は 6 割、受講中の課題提出で 4 割。
 ただし受講中の態度により、減点することもある。

[4] 教 材

田上貞一郎「保育者になるための国語表現」(萌文書林)

[5] 参考図書

- 脇 明子『読む力は生きる力』(岩波書店)
- 小澤俊夫『「グリム童話」を読む』(岩波書店)
- 松岡享子『ことばの贈りもの』(東京子ども図書館)
- 有馬哲夫『ディズニーの魔法』(新潮新書)

教育実習 I		担当教員	まつ かわ けい こ 松 川 恵 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	4 単位	1 年次通年、2 年次前期	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

各授業において学んだ理論と技術に基づいて、直接幼児に接し、保育を具体的に体験することによって、将来教職についた場合の教育技術の習得と幼児教育者としての資質の向上をはかる。

実際に幼児とふれ合い、保育を体験する中で、一人一人の幼児の姿を理解すること、幼児理解に基づいた環境構成、援助の仕方などを学んで欲しい。

[2] 授業の計画

1. 1 年次 9 月を中心として 1 週間（学科が割り振りした時期）、仁愛女子短期大学附属幼稚園で実習をする。（見学・観察実習）
2. 2 年次 6 月に 3 週間、出身地等の幼稚園（各自が交渉する）において実習をする。（指導実習）

実習の概要

(1) 実習園でのオリエンテーション

園の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、事前に研究しておく教材、周囲の環境及び設備等、教育の場としての園全体の活動についての広い理解をもつ。

(2) 見学・観察実習

見学・観察実習を通じて幼児の心身の発達段階と特性を観察し、知的・身体的・情緒的・社会的実態の大略を把握し、幼稚園教育、幼稚園の指導法等について全体的に理解し把握する。

(3) 指導実習

(1)、(2)において習得したものを総合して指導実習を行う。

教師の役割について意識しながら行動したり、指導案を作成して保育を行い、反省・評価するという体験をしたりして、教師の役割を理解し自覚を強くする。

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

1. 実習園からの評価表及び実習ノートを基に総合して評価する。
2. 教育実習 I・II はセットとして評価を行う。故に合計 5 単位認定かゼロのどちらかである。

[4] その他

1. 教育実習 I は幼稚園教諭二種免許状を取得する学生のみ受講できる。
2. 1 年次の履修科目のうち、5 科目以上が単位不認定となった場合は、2 年次における学外での教育実習は履修できない。
3. 1 年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に実習委員会で検討を行い、2 年次の学外実習を行うことができない場合がある。

教育実習Ⅱ		担当教員	まつ かわ けい こ 松 川 恵 子
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	1 単位	1・2 年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

教育実習がより良い効果をあげ有意義なものとなるように、事前に実習の基礎的事項を把握しておくことが大切なこととなる。そのため、実習内容・方法などを取り上げ事前指導を行う。また、実習後において実習反省会などの事後指導を行い、実習で学んだこと等を振り返ることにより、将来に役立たせたい。

事前指導を通して、教育実習への意欲や見通しをもち、事後指導を通して、幼稚園教育や教師の役割についての理解を深めて欲しい。

[2] 授業の計画

- 第 1 回 教育実習オリエンテーション (全体計画)
- 第 2 回 実技講習① (手遊び)
- 第 3 回 実技講習② (折り紙遊び)
- 第 4 回 実習の心得 (マナー等)
- 第 5 回 清掃体験 (仁愛女子短期大学附属幼稚園)
- 第 6 回 実習要項・実習ノート等について
- 第 7 回 附属幼稚園実習 事前指導
- 第 8 回 附属幼稚園実習 事後指導
- 第 9 回 幼稚園 (指導) 実習 事前指導
- 第 10 回 指導案について
- 第 11 回 実習日誌について
- 第 12 回 実技講習③ (わらべうた遊び)
- 第 13 回 教育実習ノートについて
- 第 14 回 幼稚園 (指導) 実習 事後指導
- 第 15 回 教育実習報告会

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。

1. 授業への出席状況及びレポート提出等により行う。
2. 教育実習Ⅰ・Ⅱはセットとして評価を行う。故に合計5単位認定かゼロのどちらかである。

[4] 教 材

米谷美和子・福田勝恵・神長美津子『キラッと光る保育者のマナー』(ひかりのくに 2005)

[5] その他

教育実習Ⅱは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生のみ受講できる。

保育実習 I		担当教員	<small>まつかわけいこ あおいゆうき</small> 松川恵子・青井夕貴
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択
実習	4 単位	1・2 年次通年	選択

[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

[2] 授業の計画

1. 1 年次 2 月下旬から 3 月上旬に 90 時間（12 日間）、出身地等の保育所にて実習（見学・観察実習）を行う。＜保育所実習＞
2. 2 年次 8 月～9 月に、各自 90 時間（12 日間、学科が割り振りした時期）、入所施設において実習を行う。＜施設実習＞

＜保育所実習の内容＞

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所の生活と一日の流れ
 - (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子ども理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
 - (1) 保育課程と指導計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

＜施設実習の内容＞

1. 施設の役割と機能
 - (1) 施設の生活と一日の流れ
 - (2) 施設の役割と機能
2. 子ども（利用者）理解
 - (1) 子ども（利用者）の観察とその記録
 - (2) 個々の状態に応じた援助や関わり
3. 養護内容・生活環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた対応
 - (3) 子どもの活動と生活の環境
 - (4) 健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
 - (1) 支援計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

[3] 評価の方法

試験期間中の試験は実施しない。
実習先からの評価表、実習ノート等により、総合的に評価する。

[4] 教 材

阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編『最新保育講座 保育実習』（ミネルヴァ書房 2009）

[5] その他

- ①保育実習 I は保育士資格を取得する学生のみ受講できる。
- ②1 年次の全履修科目のうち、5 科目以上が単位不認定（E または再試験で D）となった場合は、2 年次における学外での実習は履修できない。

保育実習指導 I		担当教員	まつかわけいこ 松川恵子・青井夕貴		
授業の種類	単位数	配当学年・時期	必修・選択		
演習	2 単位	1・2 年次通年	選択		
<p>[1] 授業の目的・ねらい、概要、到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 					
<p>[2] 授業の計画</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p><保育所実習指導></p> <p>第 1 回 保育実習オリエンテーション</p> <p>第 2 回 実習に向けての心得</p> <p>第 3 回 清掃体験（仁愛保育園）</p> <p>第 4 回 学外実習先依頼について</p> <p>第 5 回 信頼される保育士に向けて(マナー)</p> <p>第 6 回 保育士の仕事と役割</p> <p>第 7 回 2 回生による実習報告会への参加</p> <p>第 8 回 保育所の機能と目的について</p> <p>第 9 回 保育所実習の心得について</p> <p>第 10 回 実習に関する留意事項（守秘義務等）</p> <p>第 11 回 実習の課題について</p> <p>第 12 回 実習園でのオリエンテーション</p> <p>第 13 回 実習ノートの書き方（記録）について</p> <p>第 14 回 実習の総括(1)－自己評価</p> <p>第 15 回 実習の総括(2)－保育実習Ⅱに向けて</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p><施設実習指導></p> <p>第 1 回 施設実習の目的・概要</p> <p>第 2 回 実習の内容と課題</p> <p>第 3 回 2 回生による実習報告会への参加</p> <p>第 4 回 実習に際しての留意事項 (人権、守秘義務、マナー等)</p> <p>第 5 回 施設見学に関するオリエンテーション、諸注意</p> <p>第 6・7 回 施設（知的障害者支援施設）見学</p> <p>第 8 回 実習の計画と記録、実践・観察の視点</p> <p>第 9 回 各実習種別における特徴及び実習の目的と概要</p> <p>第 10 回 実習日誌の書き方、心構え、諸注意</p> <p>第 11 回 実習施設でのオリエンテーション</p> <p>第 12 回 実習の総括(1)－自己評価</p> <p>第 13 回 実習の総括(2)－グループワーク</p> <p>第 14 回 実習の総括(3)－報告会に向けて</p> <p>第 15 回 実習報告会での発表(1・2 回生合同)</p> </td> </tr> </table>				<p><保育所実習指導></p> <p>第 1 回 保育実習オリエンテーション</p> <p>第 2 回 実習に向けての心得</p> <p>第 3 回 清掃体験（仁愛保育園）</p> <p>第 4 回 学外実習先依頼について</p> <p>第 5 回 信頼される保育士に向けて(マナー)</p> <p>第 6 回 保育士の仕事と役割</p> <p>第 7 回 2 回生による実習報告会への参加</p> <p>第 8 回 保育所の機能と目的について</p> <p>第 9 回 保育所実習の心得について</p> <p>第 10 回 実習に関する留意事項（守秘義務等）</p> <p>第 11 回 実習の課題について</p> <p>第 12 回 実習園でのオリエンテーション</p> <p>第 13 回 実習ノートの書き方（記録）について</p> <p>第 14 回 実習の総括(1)－自己評価</p> <p>第 15 回 実習の総括(2)－保育実習Ⅱに向けて</p>	<p><施設実習指導></p> <p>第 1 回 施設実習の目的・概要</p> <p>第 2 回 実習の内容と課題</p> <p>第 3 回 2 回生による実習報告会への参加</p> <p>第 4 回 実習に際しての留意事項 (人権、守秘義務、マナー等)</p> <p>第 5 回 施設見学に関するオリエンテーション、諸注意</p> <p>第 6・7 回 施設（知的障害者支援施設）見学</p> <p>第 8 回 実習の計画と記録、実践・観察の視点</p> <p>第 9 回 各実習種別における特徴及び実習の目的と概要</p> <p>第 10 回 実習日誌の書き方、心構え、諸注意</p> <p>第 11 回 実習施設でのオリエンテーション</p> <p>第 12 回 実習の総括(1)－自己評価</p> <p>第 13 回 実習の総括(2)－グループワーク</p> <p>第 14 回 実習の総括(3)－報告会に向けて</p> <p>第 15 回 実習報告会での発表(1・2 回生合同)</p>
<p><保育所実習指導></p> <p>第 1 回 保育実習オリエンテーション</p> <p>第 2 回 実習に向けての心得</p> <p>第 3 回 清掃体験（仁愛保育園）</p> <p>第 4 回 学外実習先依頼について</p> <p>第 5 回 信頼される保育士に向けて(マナー)</p> <p>第 6 回 保育士の仕事と役割</p> <p>第 7 回 2 回生による実習報告会への参加</p> <p>第 8 回 保育所の機能と目的について</p> <p>第 9 回 保育所実習の心得について</p> <p>第 10 回 実習に関する留意事項（守秘義務等）</p> <p>第 11 回 実習の課題について</p> <p>第 12 回 実習園でのオリエンテーション</p> <p>第 13 回 実習ノートの書き方（記録）について</p> <p>第 14 回 実習の総括(1)－自己評価</p> <p>第 15 回 実習の総括(2)－保育実習Ⅱに向けて</p>	<p><施設実習指導></p> <p>第 1 回 施設実習の目的・概要</p> <p>第 2 回 実習の内容と課題</p> <p>第 3 回 2 回生による実習報告会への参加</p> <p>第 4 回 実習に際しての留意事項 (人権、守秘義務、マナー等)</p> <p>第 5 回 施設見学に関するオリエンテーション、諸注意</p> <p>第 6・7 回 施設（知的障害者支援施設）見学</p> <p>第 8 回 実習の計画と記録、実践・観察の視点</p> <p>第 9 回 各実習種別における特徴及び実習の目的と概要</p> <p>第 10 回 実習日誌の書き方、心構え、諸注意</p> <p>第 11 回 実習施設でのオリエンテーション</p> <p>第 12 回 実習の総括(1)－自己評価</p> <p>第 13 回 実習の総括(2)－グループワーク</p> <p>第 14 回 実習の総括(3)－報告会に向けて</p> <p>第 15 回 実習報告会での発表(1・2 回生合同)</p>				
<p>[3] 評価の方法</p> <p>試験期間中の試験は実施しない。</p> <p>事前事後指導受講態度及びレポート等により、総合的に評価する。</p> <p>欠席、遅刻・早退及び授業進行の妨げになる行為（私語、携帯電話など）は減点する。</p>					
<p>[4] 教 材</p> <p>阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編『最新保育講座 保育実習』（ミネルヴァ書房 2009）</p>					
<p>[5] その他</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育実習Ⅰは保育士資格を取得する学生のみ受講できる。 ②1 年次の全履修科目のうち、5 科目以上が単位不認定（E または再試験で D）となった場合は、2 年次における学外での実習は履修できない。 ③1 年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に実習委員会で検討を行い、1・2 年次の学外実習を行うことができない場合がある。 					